



土岐市教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内374)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
No. 573
発行責任者 所長 河合 広映
発行日 令和6年 1月 19日
題 字 山田 恭正 教育長



「ときつつこ秋祭りにご招待」
〜健康クラブとの交流活動〜
撮影 土岐津小学校附属幼稚園
知原 勝成 園長先生

「いい塩梅」

土岐市教育研究所長 河合 広映

ある日、新聞のコラムを見ていた時、「タコ焼きは8個が一般的では。」という言葉を見つけました。6個だと少ないし、10個だと持て余してしまう。と筆者は書かれていました。「そういえば、そうかな。」と思いつつ、そういう数の括りがあるなら、1ダースはなぜ12個なんだろうという疑問がわいてきました。さっそく、調べてみたところ、古代メソポタミア文明では月の動きに関連した12進法が使われていて、その12という括りが使われているのだという記事を見つけました。一日も12時間の2倍の24時間、一年は12か月、なるほど、12進法というのはこういう所でも使われているのか、と納得をしました。調べてみると12という数は様々なところで使われていて、1フィートは12インチ、星座も12、干支も12、ギリシャ神話の12神、「12」という数字を一括りにしていることの多さに驚きました。現在、日本では10進法が使われていて、10を一括りにする考え方が使われています。

「十把一絡げ」という言葉もあるように、10を一括りにする考え方も多くあります。10円玉やモーゼの十戒など。さらに考えを進めて、10を一括りということは5の括りの2倍、5という数字の括りもよく使われているのです。私たちの世代には懐かしい「〇〇レンジャー」という戦闘隊も確か5人でした。「赤・青・黄・桃・緑」ここから派生した戦闘ものも多くありました。今、私が使っている蛍光ペンもみると5本がセット。他にもいくつかありますが、それでも12という数字には及びません。12という括りは私たちの身近にたくさんあることに気づかされました。

では、なぜタコ焼きは8個なんだろう？というさらなる疑問がわきました。6個入りもあったのでは？と疑問もわいたのですが、8個という数字には様々な説があるらしいのです。中に入っているタコの足が8本だから、末広りの縁起を担いで8個にしたという説もあり、タコ焼きをのせる「舟型」の器に8個が収まりのよい数だったという説もあります。「収まりがいい」数が8個なんだろうと漠然と理解しました。こうして考えていると、私なりに次のよ

うな考えが浮かんできたのです。1ダースの12という括りや10という括りとタコ焼きの8という数は、ちょっと捉え方が違うのではないかと。これまで「括る」「収まりがいい」という言葉を多用しましたが、私たちの日常生活には、「ちょうどいい」と感じる場所があります。12という数字は、ある規則に導かれた括りであり、その数に慣れた私たちがあとから「ちょうどいい」と感じるようになったという考えです。5や10は「切りがいい」数字。それは、何かで決められたものというよりも、こうした数の括りのある生活の中で感じるようになってきている数字です。でも、タコ焼きの「8個」などは何となく収まりがいいと感覚的に感じるもので、日本語には「いい塩梅」なんていう言葉で表現されることもあります。これは、人によっても異なりますし、その割合や収まり具合のちょうどよさは他人に強要するものでもありません。自分が感じる「ちょうどいい」というところです。

学校生活においていうと、子ども同士の関係にもタコ焼きの8個と同じような「いい塩梅」があります。仲間づくりや学級づくりには、「一括り」の考え方より、このタコ焼きのような「いい塩梅」が必要だと思うのです。私たち教師には、その「いい塩梅」の空気感というか雰囲気、「なんかいい感じ」を感じ取る力が必要だと思っています。これは、経験から培われるもので、人から教えてもらうようなものではありません。あくまでも感覚なのです。でも、感覚を磨くためには、そうしたことを日頃から自分の中で意識化しているかどうか重要です。何気なく子どもたちと接していたのでは感覚は磨かれませんが、危機意識と同様に「感じる」ことは、「気にしているかどうか」です。技術と違って、「感覚」というものは、言葉で習うことは大変難しいものです。このちょうどいい塩梅を感じ取るための「気にしているかどうか」を日々の習慣にしていくことは、私たちの教師力の伸長に比較的大きなウェイトを占めているように思うのです。



不登校ゼロに向けた取組



泉西小学校長
花田 成文

1 はじめに

令和4年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、小・中学校における不登校児童生徒数はおよそ30万人と過去最高となりました。10年前と比較すると小学生は3.6倍、中学生で2.1倍となっています。お客が来なければ店がつぶれるように、子供が来なければ学校は成り立たちません。それ故、経営する立場としては、学校の存続にかかわる深刻な問題であると捉えざるを得ません。

2 不登校についての考え方

生徒指導提要（R2.12月改訂）には「不登校児童生徒への支援は、学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、（中略）社会的に自立する方向を目指すように働きかけることが求められます」とあります。一方で、総務省の就業構造基本調査からは、「不登校経験からニートや引きこもりに発展するケースは通常の7倍程度」という結果が示され、不登校が児童生徒の社会的自立を困難にしていることが示唆されます。

不登校時の受け皿整備が不十分で、自立への道筋が不明確な現状を鑑みたとき、私は「学校に登校するという結果にある程度、もしくは、かなりこだわる必要がある」と思っています。学校は子供たちの社会的自立に向けて、毎日通いたいと思える努力を常に怠ってはいけないと考えるのです。

3 本校の取組

と偉そうなことを言ったものの、本校の限られた人的資本では特別なことはできません。多くの学校でやっていることばかりだと思いますが、不登校ゼロに向けた本校の取組を3つほど紹介します。

(1) 困り感の早期発見・早期対応

子供たちの学校・家庭での困り感への早期発見・対応に向けて昨年度から「心と体のアンケート」を毎月実施しています（一昨年度までは学期に1回）。また、アンケートの実施日をロング昼休み（掃除をなし50分間）として丁寧に聞き取りを行っています。聞き取り後のアンケート用紙は教育相談担当、管理職が目を通して、事案に応じてケース会議・SC面談等を実施します。その後の本人や保護者への働きかけは、担任だけでなく主任、教相コ、生指、特支コ、相談室担当、管理職など多チャンネルで行います。本校の教育相談は総力戦です。

一連の取組を通して、多くの課題を迅速に解決・改善に導くと共に、職員の生徒指

導・教育相談事案に対するアンテナが高く、迅速で丁寧な対応へつながっていると感じています。

このような教育相談体制の充実は欠かせませんが、対処的な取組のみでは十分だといえません。新たな不登校を生まない予防的な戦略が重要であると捉え、以下の取組をスタートさせています。

(2) 授業を一人一人の居場所にする

「学校生活の8割を占める授業にこそ居場所が必要」との思いのもと、対話的・協働的な学びを授業の中心に据えた授業改善に取り組んでいます。紙面の都合上、授業改善の細部については説明できないため、子供たち・職員と共有している授業改善の合言葉を紹介します。

- ・授業でお客さんを作らない（誰一人取り残さない）。
- ・学習を人任せにしない（自分事にする）。
- ・（特活だけではなく）授業をとおして仲間づくりをすすめる。

今年度ここまでの取組の結果、どの学級でも、挙手発言や仲間との交流に意欲的に取り組む姿が見られます。現段階では、授業が一人一人の居場所とまでは言えませんが、手ごたえを感じつつあります。

(3) より楽しく豊かにする活動の推進

どの学校でも生活をよりよくするために係や委員会を中心に自治的活動に取り組んでいます。本校ではこれに加えて、学校生活をより楽しく、豊かにする活動づくりを職員や子供たちに奨励しています。自分たちの手で学校を楽しく豊かにする活動を仕組むことは、児童の活動意欲や主体性を育み、企画力や実践力を高めます。取組の結果、笑顔やユーモアが増えれば学校全体に活気が溢れ学校の閉塞感も和らぎます。

ドッジボール大会、遊び集会、読み聞かせ会・・・子供たちのアイデアと運営で、学校生活を楽しく充実したものにし、不登校が生まれにくい学校の体質を育んでいきたいと考えています。

4 おわりに

本校にも不登校児童がいますが、担任のみならず多くの職員が本人や保護者と関わり、12月から浅野教室への通室につながることができました。今後も登校するという結果にこだわりながらもあせることなく、地道に働きかけていくつもりです。

【幼稚園教育の紹介】

『ぴっかりこ』をめざす駄知幼稚園の取組

駄知小学校附属幼稚園 熊崎 克朗

- 1 わたしの胸に ぴっかり ぴっかりこ
ぼくのおでこに ぴっかり ぴっかりこ
みんな みんな
ぴっかりこ ぴっかりこ ぴっかりこ
- 3 なかよくあそぶ ぴっかり ぴっかりこ
だれもまけない ぴっかり ぴっかりこ
みんな みんな
ぴっかりこ ぴっかりこ ぴっかりこ

これは、駄知小学校附属幼稚園の園歌の1番・3番です。「ぴっかりこ」がたくさん出てきます。子供たちが「ぴっかりこ」と輝いてくれることを願って作られたものだと思います。この「ぴっかりこ」は駄知幼稚園の合言葉になっています。

幼児教育（保育園、幼稚園、認定こども園）の出口の姿は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、10の姿で示されています。

これらの姿は、幼児期の自発的な活動としての遊びを通して育っていくものです。

この幼児期に、やりたいことに夢中になることをひとつでも多く経験させることが大切で、子供が「やりたいことに夢中になる」ことにより、自立する力（自発性・自主性・主体性）が育ち、仲間と一緒にとことん楽しむことで、人と関わる力（社会性）も身に付いていきます。

○ 今年の「ぴっかりこまつり」

今年は、「ぴっかりこまつり」を11月29・30日に行いました。5歳児きりん組では、遊園地をやりたいという願いをもち、4歳児りす組では、虫がいっぱいいるりす組の森をつくろうということになり、3歳児うさぎ組は、ステージでダンスを踊ることにしました。

今年の「ぴっかりこまつり」は、テーマを「にじいろぴっかりこパーク」として、異年齢で遊ぶことになりました。

5歳児の遊園地には、メリーゴーランド、観覧車、ジェットコースター、お土産屋さん、写真コ

ーナー等。

4歳児のりす組の森では、虫取りコーナー、釣り堀、バーベキューコーナー等を作りました。

レストランで出すケーキやアイスクリームなどは、異年齢のペアの子と一緒に作りました。



1日目は、子供たちがペアの友達と一緒にお店屋さんになったりお客さんになったりして、遊びました。2日目を祖父母参観にしたため、祖父母と一緒にお店屋さんをしたり、お客さんになってお店を回ったりして楽しみました。

何年ぶりの参観「にじいろぴっかりこパーク」には、感動しました。5歳児のお友達のしっかりした対応、先生方のアイデア、その製作物には、本当に驚きました。孫も目を輝かせて、いろいろと説明してくれました。他の有名な遊園地では味わうことのできない楽しさでした。

<4歳児りす組 祖母より>

近くに住んでいますが、孫たちとは、なかなか一緒に過ごせる時間も少ないため、成長している姿が見られたことが嬉しかったです。

手作り遊園地はよくできていたと感心しました。子供たちがお店屋さん、お客さんとどちらも体験できる形は、とてもよかったと思います。

<5歳児きりん組 祖母より>

12月になってからは、お迎えのお母さんたちにも「にじいろぴっかりこパーク」を体験していただく日を2日間設定しました。

子供たちも職員も保護者も、夢中になって作ったり遊んだりした「ぴっかりこ」の1か月半の取組でした。

研究主題: どの子もわかる, できる, 深まる授業づくり ～対話的な活動を通して～

1 研究主題設定の理由

研究を始めるにあたり, 以下のように, 肥田中学校区の児童生徒の実態と願う児童生徒の姿を明らかにし, 研究主題を設定した。

【実態】

- 自己肯定感が高い。
- 前向きで素直な子が多く, 人間関係が良好である。
- 基礎学力が十分でない。
- 自分の考えを言葉にして伝える力が弱い。

【願う児童生徒の姿】

小学校

- ・根拠をもとに筋道を立てて考えたり, 事象を統合的・発展的に考察したりして自分の考えを表現できる児童

中学校

- ・疑問や課題意識をもって主体的に追究する生徒
- ・深めた学びを言葉や姿で表現し, 学ぶ楽しさを味わう生徒

【肥田中学校区の研究主題】

どの子もわかる, できる, 深まる授業づくり
～対話的な活動を通して～

「どの子もわかる, できる」とは, 授業の終末で, 身に付けさせたい力をどの子も獲得している姿である。「深まる授業」を実現するために, 知識や技能を確かなものにしたたり, 学んだ知識や技能を生かしたりする場として対話的な活動を位置付け, そこを切り口として本研究を推進した。

2 研究仮説

- ・児童生徒が見通しや課題意識をもつための工夫を行う。
 - ・目的や方途を明確にした対話的な活動を通して, 考えを広げたり深めたりする。
 - ・自分の学びを振り返る場を設定する。
- 以上のような授業を行えば, 児童生徒が「わかった」「できた」と実感できるのではないだろうか。

3 研究内容

【研究内容1】 見通しや課題意識をもつための工夫

【研究内容2】 仲間と考えを広げ深める対話的な活動の工夫

【研究内容3】 学びを自覚し, よりよい自分を実感できる終末の工夫

4 研究実践

【研究内容2】を重点において研究を進めてきたため, 対話的な活動の工夫について紹介する。

実践1 小4: 算数「面積」

ねらい: 複合図形の求積方法を考える活動を通して, 分割, 補完, 変形して正方形や長方形にすればよいことに気づき, 複合図形の求積方法について説明することができる。

本時のねらいに迫ることができるように, 個人追究および全体交流の後に, 次のような目的と方途を明らかにした対話的な活動を位置付けた。

目的: 「情報を精査して考えを形成する」

方途: 複合図形の形や辺の長さによって, 効率的な面積の求め方が違うことに気付くために, 類題を見て, どの方法で面積を求めるとよいか, 理由とともに3人交流で話し合う。

上記の対話的な活動を位置付けたことにより, 図形の形に着目して, より効率のよい求積方法を考える児童の姿を生み出すことができた。

実践2 中3: 国語「夏草—「おくのほそ道」から」

ねらい: 歴史的背景を手掛かりにして, 地の文と俳句を根拠に考える活動を通して, 杜甫の「春望」を引用することで, 時代や場所は違えど, 過去の人と同じ思いを抱いていることに気づき, 自然は悠久で雄大であるのに対し, 人間の営みは儂いものであるとむなしく感じた芭蕉の思いを読み取ることができる。

本時のねらいに迫ることができるように, 芭蕉の思いを交流した後, 次のような目的と方途を明らかにした対話的な活動を位置付けた。

目的: 「情報を精査して考えを形成する」

方途: グループで, 杜甫の「春望」を引用した理由を考える活動を通して, 平泉で今芭蕉が感じている思いと, 杜甫が抱いていた思いとを重ね合わせて話し合う。

上記の対話的な活動を位置付けたことにより, 杜甫が感じた自然の悠久さや雄大さ, 自然に敵わない人間の営みの儂さを読み取ることができた。

5 成果 (○) と課題 (△)

○全国学力・学習状況調査のアンケート結果とNRTの結果を経年で見ると, 対話的な活動に意欲的に臨み, 活動を通して考えを深めたり広げたりできていると感じている児童生徒が増えた。

△全国学力・学習状況調査の正答率は全国平均を下回り, NRT偏差値は全国平均と同等か, やや下回る結果であった。確かな学力が身に付くように, さらに授業改善が必要である。

6 今後に向けて

3年間の研究実践の成果と課題を受け, 今後も肥田中学校区として肥田小学校と肥田中学校が連携して児童生徒を育成していく。

駄知中学校区「学校課題解決」指定後の一年間の歩みについて

1 はじめに

駄知中学校区は、地域とつながりがとても深く、歴史のあるすばらしい校区です。そこで小中学校が共通して目指す子どもの像を「ふるさと駄知を愛し、たくましく生きる子」としました。そうした子どもたちを育成するために、「個が育ち、集団が高まる学級経営」を研究主題として、学級活動に力を入れて取り組んできました。令和4年度に研究発表会を行い、自分の考えを伝える力がまだ弱い、主体的な行動をさらに増やしていきたいという課題が残りました。そのために以下のことに力を入れて取り組みました。

2 令和5年度の重点として取り組んだこと

(1) 土台の充実の継続

小中9年間で、共通の土台で取り組むことが学級経営の基盤となることを教員が意識するようになりました。①「よいことみつけ」は、9年間継続しました。②「学習規律」では、小学校では教師からの声かけで、中学校では子ども同士の声かけで高めました。③「あいさつ運動」では、小中の取り組みを同一日としました。④「学級目標」においては、節目となるときには必ず立ち戻るよう指導しました。

(2) 自分の考えを伝える

①学級活動では全員が自分の考えを伝えるようになりました。どうしても苦手な子どもには教員が寄り添いました。意見を述べることは一人一人を大切にすることにつながります。

②学級活動における話合いの仕方を以下のように段階的に指導をしました。

	めざす話し方
小学校低学年	「〇〇です。」
小学校中学年	「〇〇です。わけは…。」
小学校高学年	「〇〇と比べて、私は…。」
中学校	「〇〇さんの思いを聞いて、私は〇〇と考え…。」

③いろいろな教科でも話すことを大切に指導しています。例えば、小集団で話す場の設定やロイロノートで意見を共有するなどです。

(3) さらに関わりを深める

「子どもと子どもをつなげる話し合い」にすることに視点を置きました。子どもの疑問や意見にすぐに教師が答えてしまうのではなく、子どもたち自身が納得できる解答を見つけることを待ち、促しました。以下は話し合い活動の様子です。

小学校3年生の遊び決め

A「宝探しは、宝を隠す人がけんかになると思うのが心配です。」

司会「どうしたらいいでしょうか。」

B「順番に宝を隠せばけんかにならないよ。」

C「5人で隠すなら宝の数を5個にすればいいよ。」

中学校3年生の体育大会の取り組み

D「確かに大縄で引かかることはあるけど、そんなキツイ言い方をしなくてもいいと思うけど。」

E「勝ちたい！という思いからついキツイ言い方をした。やるからには勝ちたいから多く練習をしたい。」

D「リーダーが本気で勝ちたいと思っていることが分かった。すぐに行動するよ。」

このように、子どもから子どもへの双方向の意見のやり取りの中で、相手を知ることで自分の理解を深めることができました。こうした取組の繰り返しで子どもたちの意識を変え、行動を変えていくのだと実感しています。

3 おわりに

公民館主催の行事に中学生ボランティアが多く参加しました。地域のお祭りの参加も増えました。このような学校での取組が地域でも主体的にかかわる姿になってきています。

子どもたちを地元へとどめることだけを目的とするのではなく、駄知のことを記憶に残し、将来どこの地で生活しようとも駄知を愛し、意識できる子どもたちを育てていきたいと改めて思っています。今後も小中9年間で意識して取り組み続けていきます。

令和5年度土岐市嘱託研修員会

「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現
実践報告 土岐市立泉中学校 林 祥太

【日 時】令和5年 10月 19日(木) 第5校時

【学 級】泉中学校 1年D組

【題材名】材料と加工の技術 生活を豊かにするラックをつくろう

【本時のねらい】

さしがねを用いて切断線をけがく活動を通して、さしがねの内側と基準面を密着させると垂直な切断線がかけることに気づき、寸法通りに板材の基準面から垂直な切断線をけがくことができる。

【視点1】導入「やってみたい」



数ミリのずれで作品にこんな違いがでるよ。

ミリ単位にこだわって作業を進めよう！

具体物の提示から生徒に課題意識と出口の見通しをもたせる。

【視点3】終末「できた」「わかった」



自己評価と他者評価を行うことで客観的に自分の成果を振り返る。

【視点2】展 開

個別最適な学び



ICT を活用して生徒がいつでも見直すことができる環境をつくる。

協働的な学び



さしがねをしっかりと押さえ、すき間をなくすとまっすぐ引けたよ

仲間との話合いの中で、よりよい方法を探究し、自分の活動に生かす。

実践を終えて

- ・ 正確にけがいた作品と不正確な作品の2つを提示することで、「正確なけがきが丈夫で美しい作品」につながることに気付かせることができた。生徒は具体的なイメージや見通しをもつことができたため、「自分の作品をよりよいものにしたい」という願いをもって、意欲的に課題追究に励むことができた。
- ・ 終末に自己評価と他者評価を行うことで「できた」をより実感させることができた。自らの学びを俯瞰できるような仕掛けを教師が意図的に設定することが、「できた」実感を高めることが確認できた。

展開詳細

過程	主な学習活動	指導・援助
<p>つかむ</p> <p>見通す</p> <p>やってみる</p> <p>広げる・深める</p> <p>たしかめる</p>	<p>1. 2つの作品の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寸法通りに作った作品は角が揃ってきれいな作品になっている。 ・2mmずれただけでも組み立てるとこんなにずれてしまうのか。 ・ずれた作品は木材が割れてしまっている。 ・寸法を正確にとることが大切だ。 <div data-bbox="231 432 614 499" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">寸法通りに加工し接合した作品</div> <div data-bbox="651 432 1045 499" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">2mmずれて加工し接合した作品</div> <div data-bbox="231 506 1045 705">  </div> <div data-bbox="231 739 1045 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>課題 板材に垂直な切断線をけがきするにはどうすればよいだろうか。</p> </div> <p>2. さしがねの使い方と本時の活動の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> ①木材とさしがねのすき間を見て、基準面を決める。 ②さしがねの外側の角が「0」で長さを測ればよい。 ③さしがねの内側と基準面を密着させ、さしがねを押さえて固定する。 ④切断したり、切削したりしやすいように、板材の4面にけがきをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆を定規の縁に斜めにあてると線を引きやすい。 <div data-bbox="619 929 1045 1232">  </div> <p>3. 個人追究 1か所だけ4面にけがきする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板材とさしがねの間にすき間がないように押さえよう。 ・長さを測って1か所印を付ければ垂直な線が引けるから便利だ。 ・寸法の点検の仕方を確認する。 <p>4. グループ交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間同士でさしがねをあて、垂直かどうかを確かめる。 ・どうしたらけがきが上手にできたか交流する。 <p>5. 全体交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さしがねをしっかりと押さえ、内側と基準面を密着させて線を引けば、垂直に線を引くことができる。 <p>6. 個人追究 各自作業を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間のアドバイスを取り入れてもう一度やってみよう。 ・けがきした線が1周ぴったりくつついた。 <p>7. 学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間同士でさしがねをあて、垂直かどうかを確かめる。 <div data-bbox="231 1854 1045 2022" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>寸法通りに正確にけがきするには、さしがねの内側と基準面を密着させるとよいことがわかった。すき間をつくらないことを意識して作業したらうまくけがきすることができたので、次回は正確に速く作業を進めたい。</p> </div>	<p>【視点1】「やってみよう」を生み出す具体的な課題</p> <p>寸法通りに加工した作品と寸法がずれてしまった作品を示すことで、寸法通りにけがき、きれいな作品を作りたいという願いをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さしがねの使い方を確認する時に、さしがねを使うことの良さを伝えることで使いたいという意欲を高める。 <p>【視点2】個別最適な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで作業目線の動画を準備し、必要に応じて活用できるようにする。 ・作業手順表を示し、活動の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、作業が進まない生徒や使い方の理解が弱い生徒に個別で指導する。 ・机間指導の中で各グループにミニティーチャーをつくることで交流を活発にさせる。 <p>【視点2】協働的な学び</p> <p>交流する視点を示し、グループでアドバイスすることを通して、後半の作業で意識することを確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①寸法の取り方 ②さしがねのあて方 ③さしがねの押さえ方 <p>【視点3】「できた」「わかった」を実感する振り返り</p> <p>仲間同士でさしがねをあてて、切断線が寸法通りにけがきできているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分ができたことやわかったことを振り返りカードに記述する。 <p><評価規準>知識・技能</p> <p>さしがねの内側と基準面を密着させ、板材に基準面から垂直な切断線をけがいている。</p>



「熱意が道をきりひらく」

肥田中学校 教頭 内海 裕樹

『熱意が道をきりひらく』

上記は、パナソニック株式会社の創業者である松下幸之助氏の言葉です。松下氏は、次のように言っています。

この二階に何とかして上りたいという熱意のある人は、ハシゴを考えるでしょう。非常に熱意のある人は、どうしたら上れるのか、ということでハシゴを考えます。二階に上ってみたいなあ、というくらいの人ではハシゴは考えられません。

(中略) 人間はなんといっても熱意です。みなさんが習った技術、知識というものも熱意があればぐんぐん生きてきます。

この松下氏の言葉は、まさに教育現場で求められていることではないでしょうか。今の子ども達は、今後、予測困難な時代を生き抜かなければなりません。熱意が生まれる教育をし、自ら求めようとする子どもを育てていきたいものです。その

ためには、子どもの熱意(意欲・主体性)が生まれる策を講じ、自ら求めようとするタイミングをはずさないよう指導・助言をしなければなりません。子どもがまだ求めているのに、教師が与えすぎてしまうことがよくあります。自分の教師生活を振り返ってみても、このようなことがありました。子どもが、自ら求めようという熱意が生まれるような準備や刺激を与える教育の必要性を感じています。

また、松下氏の言う熱意は、私たち教師もしっかりと受け止めたいものです。日々、私たちは学校の教育目標の具現に向け、業務に取り組んでいます。多忙な業務のため、熱意を忘れてしまっていることはないでしょうか。多忙な時こそ、一度立ち止まって自分の教師としての熱意を確かめる時間をもつことが必要ではないかと思うのです。

令和5年度土岐市教育実践論文で入賞した皆さん

<新人の部>

新人賞：仙石 健太 先生(泉小学校)

入 選：鈴木 紘乃 先生(妻木小学校)、 可兒 美緒 先生(肥田小学校)

<一般の部>

優秀賞：江崎 紀子 先生(泉中学校)

優良賞：田口 俊介 先生(下石小学校)、 安藤 亮 先生(西陵中学校)、

高木 良太 先生(土岐津中学校)、 江崎 大三 先生(土岐津中学校)、

金子 あかり 先生(泉中学校)

学校賞：(団体) 濃南小・中学校一貫教育推進戦略会議(濃南小・中学校)

令和5年度土岐市教育実践記録で入賞した皆さん

教育長賞：阿部 聖一 先生・蜂谷 鋼 先生(泉中学校)、 橋本 壮平 先生(泉中学校)、
土岐市 ICT 教育推進委員

特別賞：岩崎 礼佳 先生(濃南小学校)、 小木曾 欣巳 先生(駄知小学校)、

足立 佳美 先生(肥田小学校)、 松本 未央 先生(泉小学校)、

大野 篤司 先生(泉中学校)、 蜂谷 鋼 先生(泉中学校)、

毛利 知美 先生(泉中学校)

ロイロ認定授業トレーナーの資格を獲得した皆さん

柳原 伸哉 教頭(駄知小学校)、野田 大貴 先生(肥田中学校)、阿部 聖一 先生(泉中学校)

脇田 泰教 先生(泉中学校)

土岐市・土岐市教育委員会及び市内小中学校が受賞したり、認定されたりしたもの

- ① 第6回日本 ICT 教育アワードで「優秀賞」を受賞 : 土岐市 ※県内で3市のみ
- ② 教育DX推進2023で「教育DX推進自治体賞」を受賞 : 土岐市 ※県内で土岐市のみ
- ③ 学校情報化優良校認定制度で「学校情報化先進地域」に認定 : 土岐市教育委員会※県内で土岐市のみ
- ④ 学校情報化優良校認定制度で「学校情報化優良校」に認定 : 市内全小中学校